

促成長期どりトマト栽培における寡日照期の高品質多収化技術の実証

要約

白マルチは曇天時でも株元、収穫位置ともに慣行の黒マルチより照度が高く、果実肥大も良好であった。また、白マルチにトップリーフ摘葉を組み合わせることで、空洞果発生が最も少なくなった。なお、地温は白マルチと黒マルチで大きな差が無かった。

○ 展示のねらい

トマト促成長期どり栽培では寡日照期に光合成不足の影響で果実の小玉化や空洞果が多く発生する。対策として、光反射する白マルチの展帳及び未展開葉の若い葉を摘葉するトップリーフ摘葉法による果実品質の改善効果を検証する。

○ 主な成果

- ・白マルチで果実肥大が優れ、トップリーフ摘葉を組み合わせることで、空洞果は最も少なくなった(表1)。
- ・白マルチは黒マルチより晴天日の日中の地温上昇は緩やかだが、夕方から夜間の保温力が高く、平均地温は白マルチで15.8℃、黒マルチで15.6℃となった(図1)。

表1 1果重の推移と空洞果発生率

	11月29日	12月11日	12月20日	1月15日	1月22日	2月6日	2月20日	1果重平均 (g/個)	空洞果発生率 (%)
白マルチトップリーフ	193	180	209	173	178	157	158	178	26
白マルチ	171	194	224	205	175	150	142	180	33
黒マルチ	204	183	187	150	138	149	143	165	36

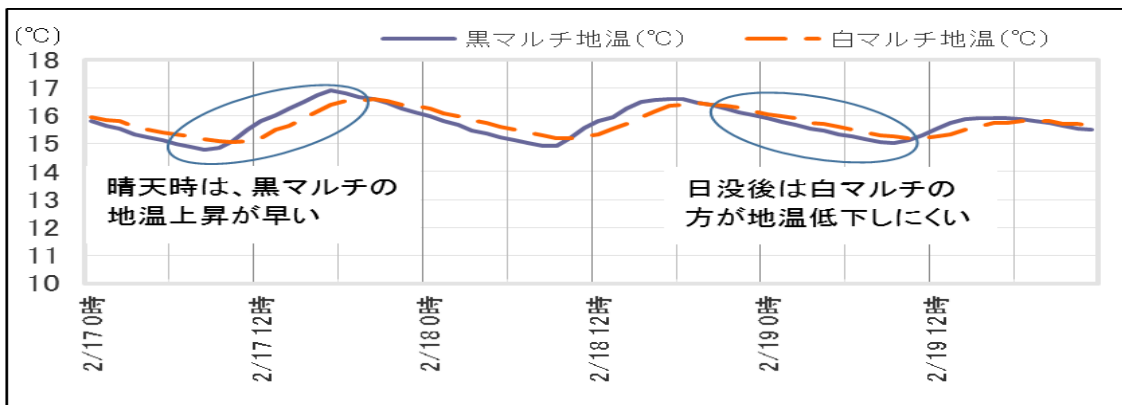


図1 マルチ資材の違いによる地温の推移 (H31. 2/17~2/19)

○ 今後の方向性

白マルチとトップリーフ摘葉を組み合わせることにより、慣行の黒マルチと比較して果実肥大が優れ、空洞果発生が抑えられた。栽培講習会等で本成果を活用し、厳寒期の果実品質の向上を図る。

実施機関： 塩谷南那須農業振興事務所経営普及部 実施場所： 高根沢町

問合せ先： 栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315